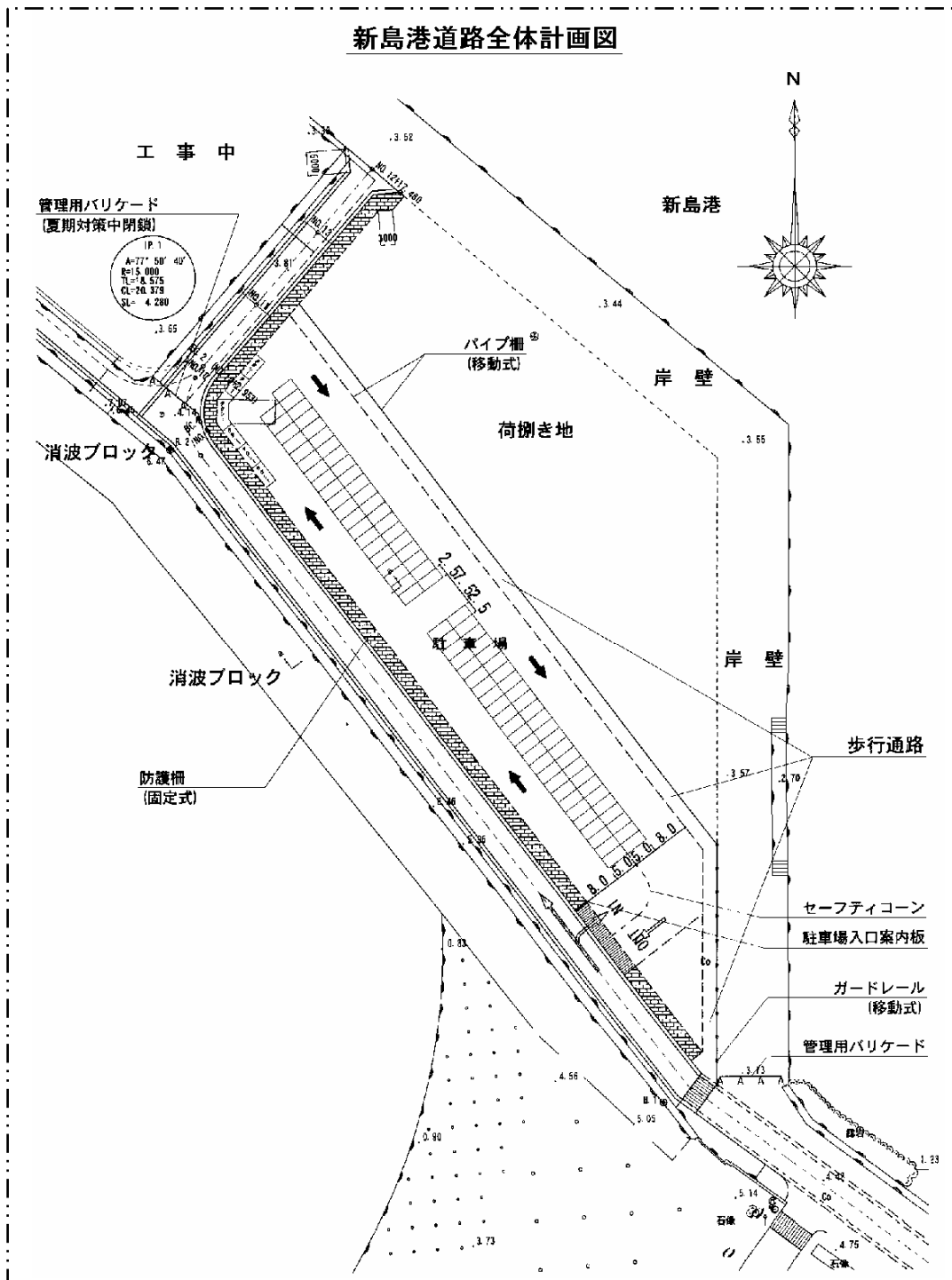


～新島港の利用形態が変わります～

平成17年3月末に新島港内の道路・駐車場の完成するのに伴い、平成17年5月頃から新島港の利用形態が図のように変わります。この計画では、一般乗降客と港湾荷役が分離されることにより安全性が向上します。なお、利用開始にあたっては“広報にいじま”でお知らせする予定です。

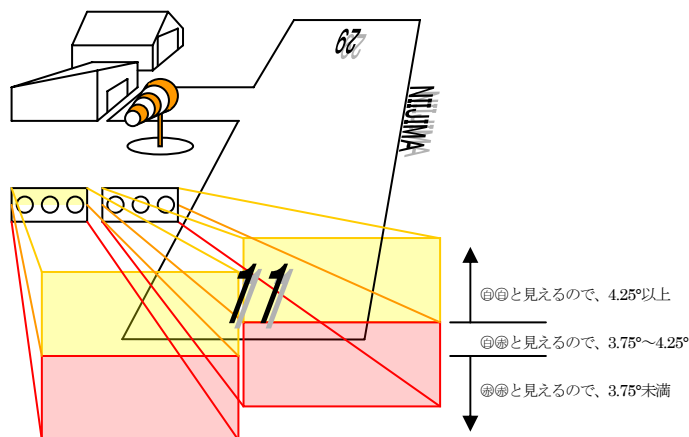


「サンタが降りた滑走路」のはなし

先日、NHKで新島を舞台にしたドラマ「サンタが降りた滑走路」が放映されました。その中で、パイロット沢木（夏八木勲）が「アイランダーは5°で着陸する姿が最も美しい」と言っていました。どのようにしてその角度を知るのでしょうか？… 空港には飛行機が安全に着陸できるように航空灯火という設備があります。航空灯火とは、「灯光により航空機の航行を援助するための航空保安施設で、国土交通省令で定めたもの」をいいます。新島空港には、航空灯火として進入角指示灯と滑走路末端識別灯の2種類があります。

進入角指示灯(PAPI) 〈パピーと読みます〉

進入角指示灯は、航空機が着陸するときその進入角度がどのくらいなのかを示す装置です。右図のように、2灯のライトを上半分が透明、下半分が赤色のフィルタで覆い、その角度を上下（仰角）に0.5°ずらしてあります。ちなみに、新島空港では3.75°、4.25°で設置しています。



航空機からは3.75°未満の場合●●に見えます。同様に3.75°以上4.25°未満の場合●●●、4.25°以上の場合●●●●と見えます。

ドラマでアイランダーが着陸するのに最も美しい角度と言っていた5°の場合、航空機からは●●●●と見えることとなります。実際の進入角は、風の向き強さによりパイロットの判断で調整しています。



滑走路末端識別灯(REIL) 〈リールと読みます〉

滑走路末端識別灯は航空機が着陸しようとする滑走路の始まりの位置を示しています。カメラのストロボのような鋭い閃光を1分間に120回繰り返します。

